日本未病システム学会雑誌　13(2)：268-270，2007

研究論文●9

日本におけるホメオパシー療法
—これまでの取り組みとその成果—

由井　寅子*

1．はじめに

ホメオパシーとは，ギリシャ語で「Homoeo」(同種の)+「Pathy」(療法)の2つの単語の合成語で，日本語では「同種療法」と訳され，古くは医学の始祖，ヒポクラテスが提唱していたところにその起源を遡る。いまから約200年前に，ドイツ人医師サミュエル・ハーネマンが「オルガノン　第6版」を著し，現代のホメオパシー療法の基本原理となる「同種の法則」「バイタル・フォース」「希釈振盪・超微量の法則」などを確立し，欧州やインドで，多くの治癒の臨床経験を積み重ねながら発展を遂げてきた。当時，欧州で流行していた梅毒や淋病などの性病の治療にも応用されたことから，貴族，王族の間で急速に広がり，英国ではロイヤルファミリーが100年以上にわたって，代々ホメオパシーを使って健康管理を行ってきた。エリザベス女王やチャールズ皇太子には，専門のホメオパシー医がおり，健康管理に携わっていることは知られている。また，インドでは，マハトマ・ガンジー首相(当時)が第一医学として推奨したことや，安価，安全なこともあり，周辺国も含め，広くホメオパシー療法が取り組まれるようになった。

英国において，重症の潰瘍性大腸炎からホメオパシー療法により奇跡的に健康を回復し，英国でホメオパシーを学び，認定ホメオパス(ホメオパシーの療法家)の資格を取得した筆者は，「病気を未病の段階で予防し，心身の健康維持や健康回復には特に有効なものであり，必ずや日本の国民のためになるもの」と確信した。しかしながら，10年前の当時の日本では，単発的にホメオパシー療法を紹介する動きはみられたが，ホメオパシーを体系的に導入する試みはなされておらず，いわばゼロからホメオパシー療法の普及を急速に進めていくことが求められ，この課題を解決するため，以下の方法で普及・定着活動を展開した。

2．方法

日本ではほとんど知名度のなかったホメオパシー療法を，早く，確実に，体系的に確立させるために，筆者はこれから述べる2つの柱での活動を行ってきた。

1つの柱は，ホメオパシーがほとんどの日本人にとっては全く目新しいものであるため，その良さを実感してもらうためには，まずは家庭で実際に使用されることが最も近道であると考え，ホメオパシーでのセルフケアによる心身の健康管理の普及活動に力を入れた。そのため，ホメオパシー製品を広く日本国民に提供するための会社を設立し，レメディー(ホメオパシー療法に用いる砂糖玉)の輸入，開発，販売を行える体制を作り，各種家庭用ホメオパシーキットの開発や，未病にも関係が深い健康維持，ミネラルバランスの調整，体内毒の排出などのレメディーセットを開発した。また，ホメオパシー療法に取り組む方々のユーザー会「ホメオパシーとらのこ会」を立ち上げ，全国各地での講演会活動や，会報を通じてのホメオパシーの良さや正しい取り組み方の普及活動を推進してきた。併せて，ホメオパシー療法を知ってもらうために出版会社を設立し，海外の基本書の邦訳出版や，

*日本ホメオパシー医学協会

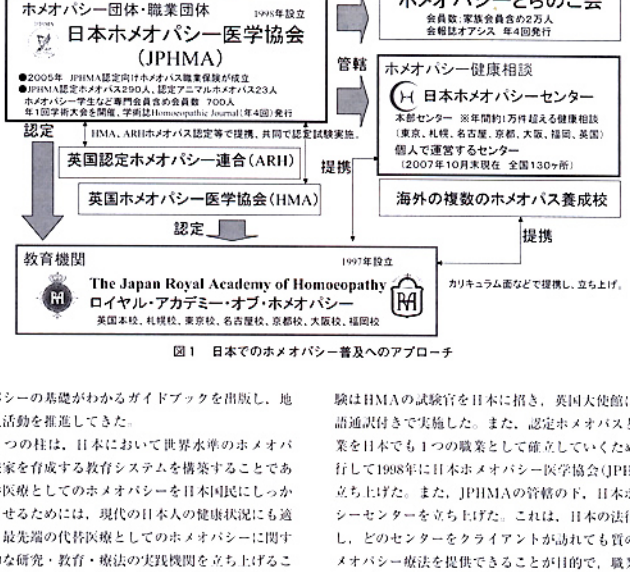

図1　日本でのホメオパシー普及へのアプローチ

ホメオパシーの基礎がわかるガイドブックを出版し，地道な普及活動を推進してきた。

もう1つの柱は，日本において世界水準のホメオパシー療法家を育成する教育システムを構築することであり，代替医療としてのホメオパシーを日本国民にしっかり定着させるためには，現代の日本人の健康状況にも適応できる最先端の代替医療としてのホメオパシーに関する専門的な研究・教育・療法の実践機関を立ち上げることであった。そのため，ロイヤル・アカデミー・オブ・ホメオパシー(RAH)を1997年に日本で設立し，プロフェッショナルホメオパスの養成コースをスタートした。欧州基準と同じ水準の専門家養成レベルを確保するため，RAHは伝統ある英国のホメオパス養成校のカリキュラムを参考標準とし，海外での経験豊かな外国人講師を毎年複数招聘し，また，卒業生の職業認定には実績のある第三者機関の認定が適切であるという判断から，英国でも伝統あるホメオパシー(職業)団体である英国ホメオパシー医学協会(HMA)の監査を受け，HMAの認定校になることからスタートした。ホメオパスの認定のプロセスとしては，HMAなど海外の伝統あるホメオパシー団体の認定した教育機関の所定のカリキュラムを修了したことを認定試験の受験資格とし，初回のホメオパス認定試験はHMAの試験官を日本に招き，英国大使館にて日本語通訳付きで実施した。また，認定ホメオパスという職業を日本でも1つの職業として確立していくために，並行して1998年に日本ホメオパシー医学協会(JPHMA)を立ち上げた。また，JPHMAの管轄の下，日本ホメオパシーセンターを立ち上げた。これは，日本の法律を遵守し，どのセンターをクライアントが訪れても質の高いホメオパシー療法を提供できることが目的で，職業的ガイドラインも作成し，クライアントからの療法に対するクレームにも，JPHMAが全責任をもって対応する形をとった。

こういった活動の成果で，2005年にはJPHMA所属の認定ホメオパスを対象とする職業保険が成立した。これにより，JPHMAは世界ホメオパシー評議会(International Council of Homoeopathy：ICH)へ日本を代表するホメオパシー団体として加入が認められ，2007年10月には，28カ国，32のホメオパシー団体にてドイツのハイデルベルクで開催された第1回のICH総会にJPHMAも招待され，日本におけるホメオパシーの現状報告と世界のホメオパシー発展のための提言をJPHMA会長として筆者が行った。また，日本人の健康状態に合ったホメオパシー療法を追求するために，徹底的な臨床重視という立

場をとった。現在，RAHはロンドンを本校とし，札幌，東京，名古屋，京都，大阪，福岡で教育を行っているが，学校に併設する形で，日本ホメオパシーセンターの本部センターを設置した。これは，RAHを大学の医学部に例えるとすると，医学部付属病院のような位置づけにあるもので，そこでのホメオパシー健康相談(臨床)の結果(成果)を教育，研究にフィードバックする形を考えた。具体的には，この成果をJPHMAの季刊誌，学術大会，CPD(continuous professional development)としての強化学習などでホメオパスに対して徹底的に共有化を図り，またRAHの教育プログラムにも採り入れるやり方をとっている。この方法により，日本人に通用するホメオパシー療法の開発が飛躍的に進んだと考える。併せて，ホメオパシー療法200年の歴史的資産を活用するために，数百冊に及ぶ海外文献研究を行ってきた。また，同時代に活躍する全世界のホメオパスの実践ノウハウを取得するために，この10年間にRAHの講義に100人以上の海外講師を招待し，通訳付きでの授業を行ってきた。そこから得られた海外の最先端のノウハウを教育・健康相談にフィードバックすることで，ホメオパシーの教育・研究は歴史が浅いにもかかわらず急速に進んだと考える(図1)。

3．結果と考察

上記の活動が実り，セルフケアの面では，家庭用キットの累計出荷が3万セットを超え，10万人を超える方がホメオパシーを活用していると推定され，家庭のセルフケアへの導入という面では一定の成果を挙げたと考える。また，現代に通用するホメオパシー療法の開発，実践という分野では，日本のホメオパシーが，海外のホメオパシー学術誌[1)3)]などにたびたび取り上げられるなど，世界的にも注目されるようになった。今後の課題として，この研究成果を日本国民の健康生活向上のため，すなわち未病対策や，罹病者への応用や様々なケアに役立つよう，現代医学や代替療法に取り組んでおられる方とも連携してさらに広く情報公開を行っていくことが，今後のJPHMAの使命とも考えている(表1)。

表1　特にホメオパシーが貢献できると考えられる分野

1．身体的，精神的なトラブルやトラウマが病気に発展する前の未病の段階や救急救命の場合でのプライマリーケア
2．ストレス社会におけるメンタルヘルスケア
3．ドイツ人医師シュスラー氏が発見したティッシュ・ソルトを応用することでの体内ミネラル調整機能のサポート，体内に不自然，過剰に取り入れた物質のデトックス
4．胎児への影響から薬の使用に慎重になる妊娠期のトータルケア
5．子育て面など家庭の健康生活のケアや発達障害などへの応用
6．難治とされる分野へのホメオパシーの応用(自己免疫疾患，精神障害，ターミナルケアetc.)

4．結論

今後，学会などでの研究，症例などの報告，発表を積極的に行っていきたいと考える。特に未病のうちに健康を取り戻し，国民の健康生活に寄与するよう，今後は臨床的にもさらに研究，実践を積み重ね，衆知を集めた研究体制や臨床症例の検討が必要と考える。

文　献

1）Yui, T.：The case of West's syndrome. The Journal of the Homeopathic Medical Association, pp. 28-33, February 2007.

2）Sonnenschmidt, R.：日本のホメオパシー　創造性とスピリチュアリティーの勝利と凱旋，Raum & Zeit(ドイツ一般科学誌「時間と科学」)　No. 145：56-69，2007.

3）Mont, K.：Homeopathy blossoms in the land of the rising sun. The Journal of the Alliance of Registered Homoeopath, Summer 2006.